

## 会議の位置付け

- ① ニセコ高校を今後も発展的に存続させていくことを前提に、複合的な今日的課題を整理分析し、対策を協議検討する。
- ② 農業と観光を融合した国際リゾート地としての立地を活かし、産業人育成を目指した持続可能性のある教育の方向性、戦略を協議検討する。
- ③ 会議は町長、副町長、教育委員長、教育長、学校長、教頭、教育振興会長及び事務局(教育委員会学校教育課)で構成。
- ④ 平成26年度から27年度にかけて3回開催。その結果を以下に総括。

## 高校をとりまく現状と課題の認識

▲プラスの評価(効果) ▼マイナスの評価(課題)

### 1 町立高校としての立地と学校経営

- ▼人材の輩出 ～専門教育(緑地観光科)を直接生かす分野や地元への就職が少ない、長い目で見れば一定の成果
- ▲経済効果 ～定住人口増、学校活動による地元経済への還元 ▲にぎわい創出 ～地域活動への高校生・学校の参加、町内外の交流・情報発信

### 2 町の財政運営面や資源投入から見て

- ▼生徒・教職員への振興補助制度 ～投資の効果がつかめない・見えにくい、選択と集中により見直しの余地
- ▼環境整備 ～屋体改修などの施設整備・営繕が今後必要
- ▲学校運営収支 ～他の町村立校に比べ赤字幅は大きくないものの自主財源確保が一層必要

### 3 公立高校配置計画(道教委)の動向

- ▼新たな指針 ～定時制課程・再編の進め方(1学年10人未満は再編対象、全日制や学科転換の検討、市町村立校のあり方について協議)

### 4 入学者の動向と生徒募集

- ▼傾向 ～当面続く入学者数の減、進学志向 ▼生徒受入態勢 ～町内・近隣からの募集と寮定員(管外からの募集)のバランス
- ▼生徒確保策 ～少子化の中での総合的な方策の必要性

### 5 ニセコ中学校との連携、高校活動への理解

- ▼情報提供、認識・理解 ～学校の良さや活動・教育内容が中学生・保護者にうまく伝わっていない

### 6 町民の学校への理解、学校の地域貢献

- ▲一定の町民理解 ～学校の活動や生徒の成長の姿を町民はある程度理解 ▼距離感 ～町民と学校が少し離れている感

### 7 産業人材輩出、卒業生の進路とニセコでの就労

- ▼地域の産業人材輩出 ～町内就労が少ない、卒業後ニセコに住み働ける環境が不十分
- ▼企業・社会的ニーズ ～卒業者と企業等が求める人材とのミスマッチの可能性、情報が十分に把握できていない

## 8 ニセコ高校振興対策要綱による学校振興施策のあり方

### ①教育課程、教職員、教材

学科のあり方 ～農業と観光の課程の両立(かつてのハイブリット構想)は通用しなくなる恐れ(地域特性から観光へ特化すべき)

⇨ 観光と共に農業も引き続き重要(緑地観光科の継続)

産業人の育成 ～ニセコで学びニセコに残って(就業して)活躍してほしい

⇨ グローバル人材としての活躍する人材も輩出

町立高校としての教育の意味とは、今後の高等教育のあり方とは

生徒の主体性・社会性の育成のためには

教職員の資質能力の一層の向上

○ 農業コースについて ～育成するのは農業後継者 or 新規就農者、農業を通じて生徒の視野を広げる観点、6次産業化との向き合い方

○ 観光コースについて ～観光の産業現場ではどのような若者を求めているか(企業ニーズとのマッチングの必要性)

### ②学校施設・設備

老朽化対策 ～トイレ洋式化、屋体耐震改修、実習設備類更新

6次産業化等の新たな教育に対応した施設 ～施設整備の前に、農業・観光の各分野で求められる知識・技術を教育課程に反映することが先決

### ③各種活動補助(部活動、研修等)

2年見学旅行 ～YTL連携協定に基づいた交流への支援は有意義、相互交流に期待、経済的理由等による旅行不参加の課題

各種大会出場経費補助 ～特に部活動の全国大会出場経費助成のあり方に再考の余地(毎年の補助額が多額)

振興対策全般 ～保護者や学校としてのニーズや要望は何か、町として何を奨励・振興したいか、学校として充実したい教育内容は何か

### ④就学助成

授業料無償 ～学校振興策として続けてきた無償化は国の新制度導入により独自施策の意味が薄れた

検定料助成 ～進路実現に役立っているか、受験を奨励する検定の精査が必要

修学助成 ～成績優秀者に対する支援制度等の検討の必要性

### ⑤就職・進学支援

進路支援 ～就職・進学の具体的な支援策の必要性 ←地元企業や社会全体の人材ニーズの把握

課題

1 生徒募集

2 ニセコ中学校との連携、接続

3 町民の理解、支援

4 産業人材の輩出

5 学校振興施策のあり方

対策（★実施成果あり）

1 生徒募集

- 学校の活動を中学生に一層知ってもらう取組
- 案内パンフレットやポスターなどツールの工夫
- ラジオニセコやソーシャルメディアの活用
- 魅力ある教育過程の工夫（英語教育の充実）
- 制服の無償化（支給）

2 ニセコ中学校との連携、接続

- 中学生の高校行事への参加と交流（発表会等）
- 中学生（特に2学年）に対する学校説明

3 町民の理解、支援

- ★苗販売会・活動報告会などの取組充実とPR
- ★町民向け広報（町広報誌の活用など）
- ★町花ラベンダー普及の継続、まちづくりに貢献するプロジェクト活動
- 役場職員が高校の活動を知る

4 産業人材の輩出

- 産業現場のニーズ調査と教育課程への反映
- 施設・設備の更新の際の機能向上（生徒がより高度な技術を身につけられる支援）
- 「食」にかかわる教育の充実

5 学校振興施策のあり方

- 授業料条例の制定、振興対策要綱の改正（平成27年度例規整備、平成28年4月施行）
- ★授業料の導入（高等学校等就学支援金の活用）
- ★マレーシア見学旅行助成の制度化
- ★検定料助成内容の整理
- 各種活動補助の見直し
- 新たな修学助成制度の創設
- 企業ニーズ把握を元にした進路支援具体策
- 屋体大規模耐震改修（平成30年度工事見込み）

方向性・戦略（今後更に検討の必要）

1 生徒募集

- 学科再編（例 緑地観光科→国際観光科）  
⇔ 緑地観光科の継続と教育内容の工夫
- 6次産業化教育を取り入れた教育内容の充実、技術を習得できる施設の整備
- 寮の再整備（定員増）←新たな生徒募集方針

2 ニセコ中学校との連携、接続

- 町内児童生徒が高校の教育方針や高校生の活動をよく理解する（一貫教育やコミュニティ・スクールの取組の中でも実現の可能性）

3 町民の理解、支援

- 学校活動への参加・理解を通じた町民による学校への支援・振興の機運醸成、風土づくり
- 環境保全など町の政策方針・主要施策と学校活動のマッチング

4 産業人材の輩出

- 人材育成方針の樹立  
地域づくりに貢献する産業人材育成
- 目指す活躍のステージ  
ニセコで活躍（まちづくりに貢献）  
⇔ グローバル人材として町外でも活躍
- （子育て支援に係る町の施策充実）

